

宿縁

五月号

東洋思想の根幹は 自他不二



ウシオ電機会長の牛尾治朗氏がある雑誌の巻頭言で面白いことを語っていました。それは他国との文化の違い、考え方を認識せよとのこと。そして、日本人が「イエス」から始まる民族であるのに対し、欧米人は「ノー」から始まる民族だということです。また、沈黙についての認識の違いを次のように言っています。

『かつて「男は黙って〇〇ビール」というコマースヤルが大ヒットしました。つべこべ言わずに飲み干すのは当然旨いから

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗

本願寺派

中原寺

TEL 〇四七-三七二-〇二九二
FAX 〇四七-三七二-〇二六一

であり、日本では最高の賛辞と受け止められるでしょう。しかしその考え方は、欧米では通用しません。具体的にどこがどう旨いのか、しっかりとプレゼンテーションしなければ、相手に良さを理解してもらえないのです。日本には、自分が高邁な信念や理想を持っていれば、見る人は見てみてくれるはずという考えがあります。しかし欧米社会では、その信念や構想を、どれくらい他人に理解させ、納得させたかという量で価値が決まり、黙っていたのでは認められないのです。』

なるほどと考えさせられると同時に、文化勲章を受章した著名な仏教学者であった鈴木大拙(すずきだいせつ)師が東洋の仏教、禅文化を西洋に伝えた苦心とその情熱にあらためて頭が下がりました。

しかし今欧米文化と精神は行き詰まりを見せて、東洋の思想、その根底にある仏教に多くの関心が集まっていることを私たちはもっと知るべきだと思います。

そこで案外ごつちやに考えている道徳とは何か、宗教とは何かを明らかにしておきましょう。

「道徳」は、正邪善悪を知り、また理性によって思慮選択を決心して邪悪を斥けようとする心です。「宗教」は、私と人間を超えたものとのどうい関係にあり、自分がど

のようにすればいいのかという自分の心のありかた生きかたを明らかにするものです。さて、ここで念頭に置いておきたいのは、宗教という言葉はもともと漢文にないといわれまます。宗教とは日本に黒船が来て以降つまり明治期になってから、外語を日本語に翻訳した言葉なのです。日本の場合、宗教にあたるものが、「道」という言葉です。仏道といえますよね、求道者といえますね。これは私たちが歩むべきものであり、歩むことよって道になる。また道があるから私たちは私たちがあり得るし、私たちが私たちであるから道は連綿として続いていくということになるでしょう。

西洋という人間と神という関係性が、東洋の伝統の中では「道」という言葉で示されます。この「道」を人間と神という捉え方をししてしまうと、どうしても相対的(自と他)になってしまう。東洋思想はすべてが自と他が分かれる前の「大本(おおもと)」を捉えて確認することです。仏教で「無」といいますが、無といっても有、無という相対関係における無ではなくて、絶対の無なのです。東洋思想では無に有があり、有に無があつて、矛盾対立するものではないのです。他の関係も同様で、自は自だけで存在しているのではなく、他が同時にある。自他不二が東洋思想の根幹にあります。

人間は他の生物にくらべて一足先に意識が変化したといわれます。そこで何が起きたかという、物事を主観と客観に分けて捉えるようになりました。物事を客観化することによって言葉や知識が発達し、科学も技術も進歩して便利な世の中になりました。しかし、半面

自我をも発達させてしまったことで「自分はあなたじゃない」「あなたは自分ではない」という分離を生んでしまいました。

つまり、一番の問題点は大本の部分。主観と客観の分かれる前の一切すべてという世界が分からなくなってしまうこと。一切すべてという世界が見えにくくなって分かれた先ばかりを見るようになってしまった。そこに生じるのが対立であり競争であり戦争です。東洋の「道」というものは、この分かれる前の世界をもう一度、認識することを説いています。東洋の言葉には現代にも通じる「自覚」という言葉があります。その自覚は自意識とは全く違います。自意識は自分というものに囚われて、一切という世界が見えなくなってしまう。

ところが、自覚というものは、その自意識を突き破って開かれてくる。自分が開かれてくると同時に、一切という世界がはつきり見えてくるということ。す。

念仏の親鸞さまは愚禿と自覚し鈴木師は大拙と自覚しました。大は大小の大ですが、そういう比較を絶したところにこの文字の真意があります。拙は「拙い」「まずい」ですが、その根本の意味はあれこれ余計な計らいをしないということでしょう。愚もまた賢の反対語ですが、人間の計らい即ち作作的な自我を超えた世界に開けた愚の自覚であるうと思えます。

仏教でいう一切衆生と呼びかける如来の誓願は、生きとし生けるものすべてでありますから、垣根のない平等一如の世界です。私たちは自我の働きで自分で自分を小さな枠に閉じ込めて不自由にしてしまっています。

【寺灯雑記】

○新しくお仲間に入りました

4/16

このたび左記の6名のご家族が入門式を受け、浄土真宗門徒として中原寺のお仲間に加わりました。

参詣された皆さまは、まず本堂尊前において三帰依文を唱和し浄土真宗門徒としての誓いをいたしました。そしてご住職より門徒式章と経本が手渡され、晴れてお仲間入りとなりました。

朝野 美穂様 (市川市曾谷)

入月 正様 (船橋市院内)

上原 勝哉様 (市川市中国分)

下釜 豊喜様 (松戸市下矢切)

田村 理子様 (市川市曾谷)

福島 秀昭様 (江東区大島)

どうぞよろしく、今後はお聴聞に心がけてご一緒致しましょう。

○門信徒会役員会を開催

4/16

常例法座のあとに今年度第2回門信徒会役員会が15名が出席して開かれました。

主な議題では、今年1月から始まった間法会館外壁等修繕工事が3月末で完了し、契約額993万6千円が2回に分けて、請負業者トプランナーに支払われた事。本年2月から門信徒皆様にご依頼した毎年の修繕費積立金の収納状況が順調にお納めいただいているとの事。その他、今夏のファミリーパーティーの内容、伝灯奉告法要団体参拝の参加者状況等についての意見等が交換されました。

○お仏具磨きにご奉仕

5/6

気温が上昇した暑さの中、お仏具磨きや清掃に沢山の方がご奉仕くださいました。

女性はお仏具磨きが中心、男性は外の清掃が中心に行われ30名を越す方々が参加されました。

清掃後は裏山で採れた旬のタケノコご飯が振る舞われました。

○婦人会趣味講座でポプリ作品

5/6

卵の殻の中にポプリ(乾燥した花や香料)を入れたカラフルで素敵な置物を山本由美子さんの指導の下作品を完成させました。

それぞれに違った可愛い置物は「みんなちがってみんないい」と、作者の顔がほころびました。

○ファミリーパーティー企画実行委

5/6

7月30日に開催されるお寺の夏祭り、門信徒ファミリーパーティーの企画実行委員会が開かれ、主に昨年まで続いた乙女座公演に変わる音楽や演芸などをどういうものにするかを検討しました。

そして第2部の模擬店やゲーム、盆踊り等は従前同様にし、第1部では船橋の郷土芸能バカ面踊り、そして演芸では大学の落語研究会などに依頼できないかといった方向で当たってみようということになりました。

尚その後の進捗で、郷土芸能バカ面踊りと落語協会所属の若手、林家楽一さんの紙切り演芸に決定しました。

これまでと違った第1部が今から楽しみです。ご期待ください。

○第25代門主伝灯奉告法要に参拝

5/15~17

本願寺第25代専如門主の第9期伝灯奉告法要に千葉組としての団体参拝旅行に当寺16名が参加しました。

一行75名は京都本願寺の法要参拝の後、境内の国宝飛雲閣と重要文化財の書院等を参観、あわただしい巡拝でした。2日目からは山代温泉、東尋坊、吉崎御坊、金沢西別院、兼六園とめぐりましたが天候に恵まれた楽しい旅行でした。バスの車窓から見た白山の美しさが特に印象的でした。

○千葉組仏教壮年会研修会に参加

5/24

千葉市中央保健福祉センター大会議室を会場に千葉組仏教壮年会の総会及び研修会が開催され、当寺より3名が出席しました。

総会では役員改選があり当寺会長の石井保さんが引き続き組の会計を担当することになりました。

研修会ではテーマ「知る」の講題で山名義一了源寺住職のお話を聞き、参加者約40名が真摯に研修しました。

☆10月から千葉組連研が始まる

本年10月から当寺が所属する本願寺派千葉北ブロックの連続研修会が始まります。あなたも参加してみませんか。

2か月に一度の割合で、2年間計13回の

履修で門徒推進員の修了証が授与されます。初歩的なテーマのプログラムで講師の発題をベースに参加者で話し合いをしながら仏教、浄土真宗を学んでゆきます。是非参加されることをお勧めします。

☆夏休み子ども合宿に参加を!

今年も8月19日~20日の一泊二日で第22回夏休み子ども合宿が開催されます。今から予定をして、有意義なお寺での合宿を子どもたちに経験させましょう。

☆北茨城磯原温泉と旧跡寺院参拝の旅
*10月24日~25日(一泊二日)の日程で門徒懇親バス旅行を企画しています。

【親鸞聖人降誕会と永代経法要】

*五月二十八日(日)

・午前十一時 降誕会法要(讃仏偈)

・正午 おとき接待

・午後一時 永代経法要(正信偈)

布教使 蔵田了然師

【法座案内】

○婦人会法座 六月三日(土) 一時

○いのちの居場所を考える会 六月八日(木) 十時半

○常例法座 六月十八日(日) 一時

○和讃に学ぶ 六月二十四日(土)三時

【五月の掲示板のことば】

幸せはなるものじゃなくて 気づくもの